



ピッポ新聞

2002

1

No. 159

子どもの本専門店

ピッポ

年間購読料 (送料込み) 1500 円

編集・発行 伊藤俊男

〒424-0886 清水市草薙1-6-3

TEL&FAX 0543-45-5460

URL <http://www.pippo.co.jp/>

Email pippo@diana.dti.ne.jp

謹賀新年

2002年が始まった。本来なら「年初に当たって」などと、何か高邁なことがらなどを書くべきかもしれないが、そんなのは柄でもないし、ましてや、高邁な内容などは端っから持ち合わせてなどない。ただただ自分が読んだ子どもの本を紹介し、時々、徒然に感じたことを書く。それだけである。それしかできないのである。今年もそれをこのピッポ新聞で続けようと思う。相も変わらぬ拙文に、お付き合いのほどをよろしく願います。

暮れもおしせまってから、猪熊葉子さんの『児童文学最終講義』（すえもりブックス）を読んだ。この本は表題通り、猪熊さんの、白百合女子大学における最後の講義を収録したものだ。もっとも、実際の講義は3年ほど前のこと。ぼくは、子どもの本とある程度長くつきあってきたが、猪熊さんが大学の先生で、しかも児童文学の研究者で、それを講じてきたことなど知らなかった。子どもの本の翻訳家（ローズマリー・サトクリフなどを翻訳）としてのみ認識していたのであった。

この本を読んで、児童文学というものが、つ

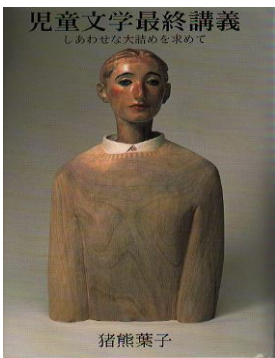
い最近まで大学において、ちゃんとした学問として認められいなかったことか、戦後の日本の児童文学

の知らなかった動向も、猪熊さん自身の活動も知ることができた。しかし、やはり一番惹かれたのは、この本のサブタイトルにもなっている、「しあわせな大詰めを求めて」ということであつた。

猪熊さんは生まれ育った環境（本を読むための）にも恵まれて、子どものときから、多くの本を読んできたという。その多くは、内容が「ハッピーエンド」で終わるものであり、それを読むことによって、しあわせな充足感を得たのだという。彼女はイギリスのオックスフォードへ留学し、あの『指輪物語』のトルキン教授に付いて勉強をしたのだそつだ。

トルキンがその時々語ったことで、後に「なぜもつと深く聞いておかなかつたんだろう」と、思うことが多くあつたと猪熊さんは語っている。その中に「近頃の子どもは、可哀想だ。親の勝手で、行きたくもないのに車に押し込まれて旅のお供をさせられる。しかしね、旅なんてものは、乗り物を使わなくてもできるものなんだよ」というのがあつた。そのときはピンとこなかつた猪熊さんだつたそうだが、後になつて、「中つ国」という架空の世界を長い時間かけて構築し、その不思議な世界を心ゆくまで旅された先生には、車も自動車も必要ならつたので、と、語っている。

そのトルキンは『妖精物語について』のなかで、敗北が蔓延する現代文学に対して、「しあわせな大詰め」という言葉で、「喜び」を感じさせる文学の必要性を語っているのだという。児童文学に関心のある方は是非ごつぞ。



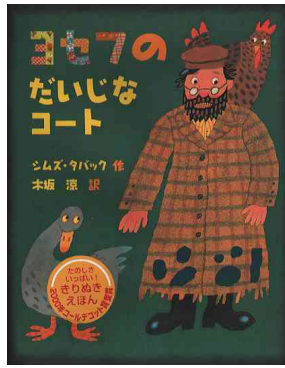
児童文学最終講義
しあわせな大詰めを求めて

猪熊葉子

ねーこの本読んだ?

『ヨセフのだいじなコート』(シムズ・タバック・作 木坂涼・訳 1470円 フレーベル館)

ヨセフはコートをもっていましたが、つぎはぎだらけでした。そこで、それをジャケットに作り変えて村祭りに行きます。そのジャケットがまたつぎはぎだらけになり、今度はチヨツキに・・・。コートがだ



んだん小さな物に変化していくのですが、その変化していく物が、前ページで切り抜きされ、予告されていく、

ちよつとした仕掛け絵本になっている。次にはどんな物に変化するかと、小さい子は期待を膨らませてページをめくることが出来る。この絵本2000年度のコールデコット受賞作である。

3歳ぐらいから

『どこへいくの? ともだちにあいに!』(いわむらかずおとエリック・カール・作 1575円 童心社)

この絵本ちよと変わった絵本です。第一は作者が二人いることです。一人は日本の

いわむらかずおさん。もう一人はアメリカのエリック・カールさんです。二番目の変わった点は、絵本を読んでいくとまんなか



とアメリカの動物って鳴き声がちがうのかな? 3歳ぐらいから

『おおきなラッパとちいさなオリー』(ジャック・ベクトルト・文 オーリリアス・バクダリア・絵 清水奈緒子・訳 1575円 徳間書店)

オリーはラッパが大好き、それも自分よりずっと大きい、バスホルンが。毎日練習をしてたら、お母さん、そして町中の人「ウルサイ!」と怒りだした。困ったオリーは、誰もいない海の上で練習することに。そのとき、海の岩礁地帯の危険を船に知らせるブイの鐘の故障を発見した。おりしも、霧で船は周りがよく見えない。オリーはラッパを吹き続け、危険を知らせて大手柄・・・。



この絵本、50年代のアメリカの絵本で、絵を見ていくだけでも、人々の様子などお話がよく理解できて楽しい。4歳ぐらいから

『ロサリンドとこじか』(エルサ・ベスコフ・作 石井登志子・訳 1500円 フェリスモ出版)

ロサリンドとなかよしの子鹿が、猟師の犬に驚いて、どこかへ行ってしまいました。悲しむロサリンドを見て、猟師は子鹿を探しに。子鹿は王様に捕らえられ檻の中。子鹿はどんなごちそうも食べようとしません。そこへ犬と猟師がくるのですが・・・。



ベスコフの絵本がこのところ、あちこちから出版あるいは復刊されています。この絵本も復刊です。同時に『おやゆびひめ』も復刊された。続いて、『いちねんのうた』『ウツレのスキーのたび』『おうじよさまのぼうけん』

『ペーテルおじさん』の出版がフェリスモ出版から予定されています。

5歳ぐらいから

『ふわふわふとん』 やなぎむらのおはなし (カズコ・G・ストーン・作 840円 福音館書店)

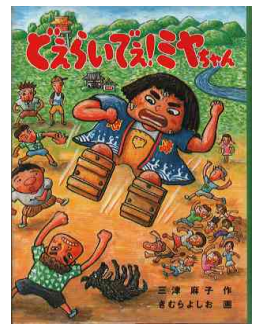


冬が来て、やなぎむらの住人は寒くてしかたありません。そこで、みんなであたかにおふとんを探しに出かけます。途中でチヨキリさんが困っているのを助けてあげたら、ががいもの種のあるところを教えてくださいました。ががいもの種には綿毛が一杯詰まっているのです。大きながが芋の種を、力を合わせてやなぎむらまで引いている途中で雪がたくさん降ってきて動けなくなってしまうました。さて無事にみんなはやなぎむらへ帰るとができるでしょうか・・・。

『どえらいでえー!ミヤちゃん』 (三津麻子・文 きむらよしお・絵 1575円 福音館書店)

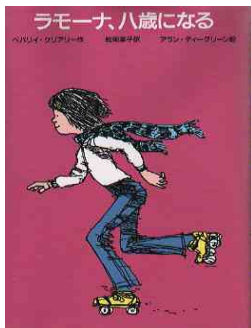
とある、小さな町の小さな商店街に住む悪ガキ5人。おやじたちにドツかれながらも楽しくやっていた。そこへ突然飛び込んできたのが、ミヤちゃんだった。出会ったその日に、5人の悪ガキは、ミヤちゃんにたちうちできなくて、子分にさせられてしまったの

である。ところが、ミヤちゃんは5人と同じ4年生である



んのだ。イタズラときたら、それまでの5人の悪ガキのイタズラなど幼稚園に等しいです。さだった。今日も6人はところかまわず暴れまくる・・・。ここには、生き生きとした子どもたちの日常が描かれている。6人がミヤちゃんにひきずられながらも、友情を育てていく様子がほほえましい。4年生ぐらいから

『ラモーナ、八歳になる』 (ベバリー・クリアリ・文 アラン・ティーグリーン・絵 松岡享子・訳 1260円 学研)



ラモーナは三年生になり、新しい学校へバス通学。姉のビーザスは中学へ、そしてお父さんも、つとめをやめて先生になるため大学へもどった。この

作では、お母さんを含めたラモーナ一家の日常が描かれている。一家は忙しさを、節約生活から来るストレスやらで時々ギスギスする。そんな中で、ラモーナも家族のこ

と、友達のことなど直面する問題を色々考えます。この作品、ただ明るく活発なラモーナを描くだけでなく、子どもがどう物事を考えるのかや、大人だって問題を抱え込み悩むものであることなど、子どもの読者の目線で描かれていて、子どもの共感を得ることだろう。これは「がんばれヘンリーくんシリーズ」で登場して、随分久しぶりの出版である。同時に『ラモーナとおとうさん』『ラモーナとおかあさん』の2さつも復刊された。さらに後2冊ラモーナシリーズの新刊が予定されている。

『ジョージとあそぼう』 (エ・V・レイ・原作 福本友美子・山下明生・訳 2268円 岩波書店) キュリアス・ジョージのキャラクター絵本です。



『ジョージとあそぼう』 4冊 H. A. レイ原作 福本友美子、山下明生・訳 2268円 岩波書店) キュリアス・ジョージのキャラクター絵本です。あそぼう かずのえほん「のりものだいすき」「A・B・C」「はんたいことは」の4冊で、各567円です。絵本ひとまねこざるシリーズのおさるのジョージが出てくる場面に、それぞれの状況設定(かず、のりものなど)されているキャラクター絵本です。合紙で製本されているから丈夫です。

2歳ぐらいから

『カニ ツンツン』 (金関寿夫・文 元
 永定正・絵 840 円 福音館書店)

「カニ ツンツン ビイ ツンツン ツンツン ツンツン カニ チャララ ビイ チャララ・・・」これ聞くと、大人は「うん？なんだ？どんな意味だ？」子どもは「カニ ツンツン・・・」って、すぐ声に出してまねしてて楽しむんだよね。この絵本の帯に推薦の言葉として、谷川俊太郎



さんは「生きて
 いるから子
 どもは笑う。
 生きている
 から子どもは
 喜ぶ。 子ど
 もに教える絵
 本じゃありま
 せん。 子ど

もに教わる絵本です」と書いているが、これ本当のこと。この絵本、アメリカ・インディアンの詩『おれは歌だ おれはここを歩く』などの訳者金関さんが、自分で創り出した言葉や、すでにある言葉を自在に組み合わせたもの。ちなみに「カニ ツンツン・・・」はアイヌの人がききとる鳥のさえずりの声だそう。お正月、家族でこの絵本、声を出して読みあつたら楽しいこと間違いなし。これは蛇足だけど「世の流行語大賞」(小泉が受賞したというあれのこと)などというくだらない言葉よりも千倍も万倍も、こっちのほうがいい！今月のおじさんの一押しの絵本だ！

インフォメーション

復刊絵本

2月の上旬に福音館から4冊の絵本が復刊されます

『かあさんねずみがおかゆをつくった チェコのわらべうた』(ヘレナ・ズマトリーコバー・絵 いでひろこ・訳 1050円)
 チェコを代表する画家のユーモラスで美しい絵と、リズムのとびきり楽しいわらべうた絵本

『まどのそとの そのまたむこう』(モーリス・センダック・作 わきあきこ・訳 2100円)

アイダは、ゴブリンにさらわれた妹を取り返しにでかけますが・・・少女の内面を描いたセンダックの絵本。

『カーニバルのおくりもの』(レミィ・シャールリップ・文 バートン・サプリー・絵 うちだりさこ・訳 1155円)

貧しい男の子ハーレキンは、カーニバルの日、大勢の友だちから暖かい贈り物を受けとりますが・・・うつとりするほど美しい絵本

『ママ、ママ おなかがいいたいよ』(レミィ・シャールリップ・文 バートン・サプリー・絵 つばいいくみ・訳 1365円)

お腹が痛いというぼつやの腹の中からはなんと、クツヤ、自転車が出てきた・・・影絵遊びも楽しめます。

(福音館のチラシより)

今月の「ばあやのお話か」

宮崎久子さんの「お話会」は1月26日(土)の午後2時からピッポで開きます。新年最初のお話会ですから、どうぞ楽しみにしてください。

ピッポでは、毎月第四土曜日の午後2時から宮崎久子さんのご協力でお話会を開催しております。どなたでも参加できますから、どうぞおいでください。

子どもの本を購入します

ピッポ古書クラブでは、皆様から子どもの本(絵本・物語・科学読み物など)を、購入いたします。リサイクルの古本屋と違い、ちゃんと評価した上で購入します。

お手元で眠っている子ども本をお持ちでしたら、是非譲ってください。電話・ファクシミリ・メールでご連絡下さい。その場合は書名・著者名などの他に、本の状態などもお知らせ下さい。直接お持ちいただいても結構です。

編集後記

さて、明日(29日)から久ぶりに山行。今回は、準備(これは体力的準備も含む)

をほとんどしてないから、テント山行でなく、小屋泊まりと決めた。行き先は、八ヶ岳。ロープウェイで北横岳までゆき、そこから二泊三日で赤岳まで縦走の予定である。何度も登ったところだから、まあ、のんびり雪山を楽しんでこよう。

祈る好天！